

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の結果 京都市立北白川小学校

4 月 18 日に、本校 6 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、教職員で分析をした結果がまとまりました。本調査では、国語科と算数科の 2 教科と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語科・算数科）

国語科（A・B）、算数科（A・B）の全ての調査において全国の平均正答率を上回り、大変良好な結果となりました。特に、国語科 B「読むこと」の「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」問題では、**全国の正答率を 6.3 ポイント上回っていました**。学校・家庭・地域で、読書活動を大切にしている成果が表れていると考えます。算数科 A「数と計算」「数量関係」の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする」問題では、**全国の正答率を 17.8 ポイント上回っていました**。この場合、**まず乗法を行ってから、次に加法を行う**という基礎的な計算が定着してきていると考えます。また、算数科 B「数量関係」の「示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する」問題では、**全国の正答率を 22.4 ポイント上回っていました**。式という抽象的な事柄と表という具体的な事柄を関連付ける学習は、低学年から学習しています。今後も丁寧に学習を積み重ねていきたいと考えています。

一方で、国語科 A「読むこと」や国語科 A「言語についての知識・理解・技能」で、平均正答率が 50% を下回っているものもあり、更なる定着が望まれます。

以下の内容は、「正答率が低かった問題の概要」と「課題」、「課題を改善するために今後の授業実践で取り組んでいきたいと考えていること」です。

<国語科>

国語科 A	全国の正答率 (%) との比較 -5.9 ポイント	問題の概要	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する
		課題	後付けのある手紙の書き方が分からないこと
		課題を改善するために今後の授業実践で取り組んでいきたいと考えていること	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 学年～第 4 学年まで書写での学習事項を、段階を追って丁寧に学習する。(低→伝えたいことを簡単に書く、宛名や差出人を書く。中→段落・行・後付け) 書写の時間に学んだ手紙の形式を意識して、手紙を書く活動を取り入れる。(総合的な学習の時間等で、目的意識をもって依頼状や案内状を書く。)
国語科 B	全国の正答率 (%) との比較 -6.3 ポイント	問題の概要	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の [イ] に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く
		課題	<ul style="list-style-type: none"> 答えを 1 つ見つけて終わっていること 文章中の言葉を視写してしまっていること 条件に合わせて書くことができていないこと
		課題を改善するために今後の授業実践で取り組んでいきたいと考えていること	<ul style="list-style-type: none"> 接続語を使って順序立てて表現することに慣れる。(まず、それから、次に、つまり 等) 因果関係を表す書き方のパターンに慣れる。(なぜなら～だからです 等) 書いた文章を読み返したり、間違いに気付いたりする習慣をつける。

<算数科>

算数科 A	全国の正答率 (%)との比較 -4.8 ポイント	問題の概要	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「すべて選んで」という指示を読み落としている。 ・高さの値が書かれていないことで、(底辺)×(高さ)÷2の公式を使うことを想定しにくい。
		課題を改善するために今後の授業実践で取り組んでいきたいと考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・問題をよく読み、また見直す習慣をつけられるようにする。 ・なんとなくではなく、根拠をもって問題を解く。 ⇒「なぜそう考えたのか」説明する。 ・いろいろなパターンの問題を解く。 ⇒応用的な問題に挑戦する。
算数科 B	全国の正答率 (%)との比較 +5 ポイント しかし、 正答率が30%台	問題の概要	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の定義が理解できていない。 ・平均の効果的な解き方に気づくことができていない。 ・自分で題意を理解しないまま、前問につられて解いていることも考えられる。
		課題を改善するために今後の授業実践で取り組んでいきたいと考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・長文の問題に慣れる必要があるので、時間を取って取り組む。 ・類似問題を自分で作る経験させる。 ・スモールステップで問題を解いていく。 ・前時の振り返りを次の時間の初め(導入)に入れることで、既習事項の定着を図る。

児童質問紙調査について

質問の中に「学校のきまりを守っていますか」がありました。それに対して、本校の子どもたちは「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答していました。

学校のきまりを守りながら、学校生活を送ろうとしていること、6年生のよいところです。これは、委員会活動やクラブ活動、部活動での姿にも表れています。

また、朝会では6年生が司会進行役を務め、子どもたち主体の会になるように取り組んでいます。6年生が主体的に取り組む姿やしっかり整列する姿が他学年に波及しています。

学校のきまりを守る意識を、学習規律にも活かし、学びを積み重ねていくことができるよう、指導・支援を続けていきたいと考えています。

